

平成26年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

西中学校

生徒数

117

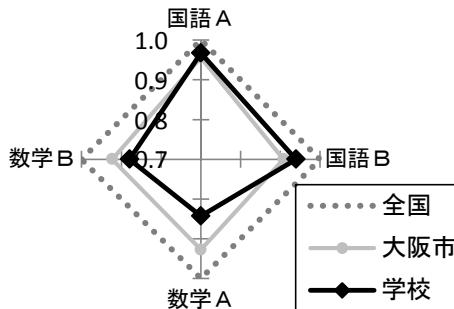
平均正答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	76.8	47.9	56.8	52.6
大阪市	75.9	46.3	62.5	55.2
全国	79.4	51.0	67.4	59.8

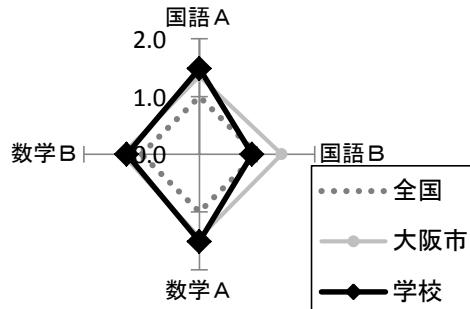
平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	4.6	3.2	6.5	13.7
大阪市	4.2	5.0	6.2	14.5
全国	3.1	3.5	4.3	10.9

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



結果の概要

- 国語A・B、数学A・Bとも全国平均を下回ったが、経年で比較するとほぼ横ばいの結果である。
- 授業の内容の理解については、肯定的な回答が多いが、1日当たりの学習時間が1時間未満の生徒が4割強いるとともに、計画を立て勉強していない生徒が6割弱存在し、家庭での自主的な学習の定着が大きな課題である。また、5割を超える生徒が普段全く読書をしないと回答しており、読書習慣の形成も課題である。
- 「いじめを許さない」といった心情については、確実に醸成されており良好な結果と言えるが、将来の夢や目標を持っていないという生徒も3割おり、夢や目標に向かって努力していくという姿勢をさらに身につけさせる必要がある。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

- 国語に関しては、「国語の勉強が好き」「授業の内容がよく分かる」という生徒が約8割に達しており、授業改善に向けた取り組みが進捗し、授業において様々な考えを引き出したり思考を深めたりする発問や指導の充実が図られ、成果が現れてきている。
- 習熟度に応じた指導のさらなる充実を図るとともに、言語活動の充実を図る授業づくりに努め、言語力や論理的思考力の育成を図る。
- 数学については、8割以上の生徒が「できるようになりたい」と回答しており、学習意欲は強いが、「授業の内容はよく分かるか」の問には、約6割の生徒しか肯定的な回答をしておらず、さらに習熟度別授業の充実を図っていく必要がある。
- 多くの生徒が基本的生活習慣を身に附けており、朝食、就寝時間等に課題のある生徒も存在する。これらの生徒に対し、家庭との連携をさらに深め、課題の克服に向けて取り組みの充実を図っていく必要がある。